

藝

GEI RIN

林

第五十九卷 第二号
平成二十二年十月

「教育勅語」(勅諭)を起草した井上毅(かたむね)(法制局長官、47歳)から、明治二十三年(一八九〇)十月三十日の勅語頒布直後、長らく明治天皇の侍講侍講を務め、聖旨を奉じて草案の修訂に力を尽くした元田永孚(ながゆき)(樞密顧問官、72歳)に宛てた返書。両者とも熊本藩校時習館出身の英才で、率直に意見交換して仕上げたが、最終的には天皇ご自身(38歳)により裁可され完成するに至ったことを、井上は元田による「積年御誠心御輔導之美果を結候」と称している。 国立国会図書館憲政資料室所蔵「元田文書」所収。

奉^リ拜誦^シ候。教育／勅諭被^シ發^セ誠^ニ感激慶頌無^ク
他^ノ奉^ク存^シ候。畢竟積年／御誠心御輔導／之
美果を結^ヒ候と／奉^リ存^シ候。(中略)／神祇院ノ事
ニ付^キ明日於^テ宮中^ニ得^ニ／拜晤^ヲ一度奉^リ存^シ候。

(明治二十三年)

十一月二日

元田(永孚)先生

草々拝答 碩首

(井上)毅